

第1回総合計画策定委員会作業部会 グループワーク意見まとめ

カテゴリー1	人口減少・少子高齢化
--------	------------

予想される変化	今後の対応策	関連する主な大綱・政策
少子高齢化	地域力の強化、人との関わり合いの増加	1-2 3-3
	地域での健康づくりのサポート強化、皆が長く働けるような施策（行政だけでなく企業・学校等との連携） 健康づくりに積極的でない人へのアプローチ	1-2 3-1、3-4
高齢化の進展	デジタルデバイド対策、介護予防の推進	3-1
生産年齢人口の減少（医療・介護）	介護人材の確保、介護のICT化	3-4
出生数の減少 （0－5歳減少し、増加しないことが予想される）	・減少年齢の人口増に向けた子育て施策（保育支援の充実など） ・より充実した情報発信手法の検討	4-1
人口増加ののち、減少に転じる	・人口ピークに対応した下水道及び水道などのインフラ整備。人口減少に転じた場合、ダウンサイジングや他市との施設の共同運用、広域連携などの検討。 ・都市開発による急激な人口増の結果、過大校問題が生じる可能性	6-2 8-1
貧困高齢者の増加、医療費・介護費の増加	—	3-1
格差社会の拡大、貧困の固定化	—	3-3

第1回総合計画策定委員会作業部会 グループワーク意見まとめ

カテゴリー2 地域コミュニティ

予想される変化	今後の対応策	関連する主な大綱・政策
<ul style="list-style-type: none"> ・更なる担い手不足 ・地域の担い手の委嘱年齢を引き上げているが、横展開が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・全世代のICTリテラシーを育む取組が必要 ・GIGAスクールで身についた力を社会へ有効活用できないか →デジタル・ネイティブの子供達が身に付けた情報活用能力を地域社会に還元するなど ・公民館はウェル・ビーイングの思考を持っている高齢者にしっかりと対応できるように 	1-2 4-2、4-4 8-1
自治会加入率の更なる減少 転入者・地縁がない人の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・今時のつながり方(ネットなど)への対応 ・自治会加入率によらない指標がいるのでは 	1-2
地域コミュニティの希薄化、地域力の低下	地域共生社会の推進	1-2 3-3

カテゴリー3 防災・環境

予想される変化	今後の対応策	関連する主な大綱・政策
必ず起きるとされる大地震をはじめとする自然災害	<ul style="list-style-type: none"> ・ハードの整備には多額の費用と長期の工事期間を要する →ハードだけでなくソフト面での対策が必要。 ・消防指令機能の広域連携が開始されるが、対応は応援要請があった場合を除き、各市町村が自ら行う。→今後、広域連携を検討する必要性あり 	2-1
気候変動による災害の多発	災害時要援護者への支援	2-1 3-3
気候変動による温暖化	高齢者の熱中症対策	5-1

第1回総合計画策定委員会作業部会 グループワーク意見まとめ

カテゴリー4 子育て		
予想される変化	今後の対応策	関連する主な大綱・政策
共働き家庭、配慮を必要とする児童の増加	<ul style="list-style-type: none"> きめ細やかな支援が必要 ・病児・病後児保育の充実(より利用しやすい施策を検討) ・男性の育休取得 ・支援利用に係る経済的支援 ・一時預かりの充実 ・おむつ無料配布 	4-1
虐待数の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・特定妊婦への継続的な支援 ・性教育 ・子供の居場所づくり ・貧困WGでの引き続いての検討 ・相談対応者等のスキルアップを図る 	4-1
保育現場の担い手不足	<ul style="list-style-type: none"> ・報酬の引き上げ ・労働条件の充実 	4-1
市内の南北問題(北部は子供が増加)	対応の検討が必要	4-1

カテゴリー5 学校教育		
予想される変化	今後の対応策	関連する主な大綱・政策
<ul style="list-style-type: none"> 様々な教育課題の深刻化 人材の不足(教職員、学童保育指導員等) 公民館の役割がより問われるように 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会リソースの活用(企業、大学、公民館を核として地域コミュニティ) ・地域と学校との結びつき(元々は結びついていた) 	4-2
教職員の質の担保	職員のただ働き部分を有償に	4-2
配慮が必要な子供の増加	専門的知見を有した様々な専門家(医学等)との連携が必要	4-2

第1回総合計画策定委員会作業部会 グループワーク意見まとめ

カテゴリ-6 まちづくり

予想される変化	今後の対応策	関連する主な大綱・政策
中核市移行による屋外広告物の事務権限移譲 →市民の景観に対する要望が増加	<ul style="list-style-type: none"> ・市民要望に対する仕組みづくりが必要 ・吹田ブランドの価値が上がり、人口減少の抑制に効果がある 	6-1
<ul style="list-style-type: none"> ・リニア開通などで広域的な吹田市の役割が求められる。 ・通販の増加で物販などの商業施設の需要が少なくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり的に有利な立地である吹田に求められるものに着目して検討。 ・商業施設は1サイクル20年ぐらいなので、建物の寿命まで利活用ができるように、ソフト・ハード面で変化できるような制度ができれば。 	7-1 6-1
民間マンションが資金難で建て替えできないものが増える。	<ul style="list-style-type: none"> ・建設から維持管理、解体までのLCCを想定した資金計画を立てることを必須とする。 ・吹田は土地の価値が高いので、流通に乗せる仕組みづくり。 	6-1
高度成長期に建設した、学校などの公共施設の建て替えが多くなる。	減価償却費に応じた基金への積み立てが必要。(将来負担も考慮)	6-1 8-1
緑地・自然の機能強化	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンインフラ等の戦略的推進・活用 ・意識高揚のための周知、啓発活動の推進 	6-1
移動手段の多様化による公共交通の衰退 (公共交通利用者の減少)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者・市民・行政が一体となった利用促進策の推進 ・行政による事業者への支援 	6-2
インフラの老朽化	—	6-1、6-2

第1回総合計画策定委員会作業部会 グループワーク意見まとめ

カテゴリー7 ICT、DX

予想される変化	今後の対応策	関連する主な大綱・政策
感染症対策をしながらの施策推進	可能な業務のICT化	8-1
ICT化、デジタル化の推進	高齢者のICTリテラシーの推進	3-1 8-1
紙とデータをどう使い分けていくか	<ul style="list-style-type: none"> ・従来通りのサービスの仕方では成り立たないことへの対応 ・デジタル対応が難しい高齢者への対応 (電子図書が飛躍的に進んだが、高齢者にとっては難しいのでは)	3-1 4-4 8-1
2040年以降は一定の人がデジタル機器を使える可能性	デジタル技術による詐欺、フィッシング詐欺等の増加への対応。	2-2 8-1
皆が現金を持たない時代 ・クレジットカードからQRコード決済まで ・マイナンバーカードの普及	国、他自治体の動向を参考に対応を検討(豊中市ではオリジナルQR決済あり) 【キャッシュレス化推進の課題】 店舗側…導入コスト等 ユーザー…使用方法が分からない、スマホを皆に持ってもらう施策が必要	8-1

第1回総合計画策定委員会作業部会 グループワーク意見まとめ

カテゴリー8 スポーツ

予想される変化	今後の対応策	関連する主な大綱・政策
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ需要の多様化 ・多種目化(ニュースポーツ、eスポーツ等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、スポーツ推進計画を策定中 施設を多種目で使えるようにする(複合化)、専用化、近隣市や他部署(公園等)との連携を検討 	7-2

カテゴリー9 人権

予想される変化	今後の対応策	関連する主な大綱・政策
<p>より誰もが暮らしやすい街に (考え方が進む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・LGBTQへの配慮、行政のあり方も変化を求められる。 ・啓発だけではない具体的施策 (パートナーシップ制度等) 	1-1

カテゴリー10 コロナ禍による影響

予想される変化	今後の対応策	関連する主な大綱・政策
<p>災害、コロナ、温暖化等環境の変化からくる生活様式の変化</p>	—	全大綱
<p>ライフスタイルの変化の劇的加速</p>	—	全大綱